

2025（令和7）年度 事業報告書

自 令和7年4月1日

至 令和8年3月31日



社会福祉法人

同和園

目次

1	総括	1
2	サービス事業所事業報告	3
	(1) 特別養護老人ホーム	3
	(2) 養護老人ホーム	4
	(3) 同和園ショートステイ	5
	(4) 同和園デイサービスセンター	7
	(5) 西野の家「はなさんち」通所介護事業所	8
	(6) 日野の家「げんさんち」通所介護事業所	10
	(7) 同和園ホームヘルプステーション	11
	(8) 同和園訪問看護ステーション	13
	(9) 同和園居宅介護支援事業所・西野居宅介護支援事業所	14
	(10) 京都市醍醐北部地域包括支援センター	16
3	法人本部事業報告	18
	(1) 総務課・経理課	18
	(2) 人事課	19
	(3) 医事課	20
4	研修一覧	21

I 総括

1. 財務基盤の強化

(1) 財務体質の改善とコスト削減

厳しい環境下においても人材確保と継続的な経費削減・業務効率化を進めた結果、手元資金は回復基調を維持し、財務体質の抜本的改善に向けた債務再編に着手しました。また、食材料費や日用品の価格高騰に対しては、見積もり合わせや仕入先の見直しを徹底し、コスト削減に努めました。

(2) 適正な稼働率の維持と加算算定

特別養護老人ホームでは退居から入居までの期間を 5 日以内とする目標を掲げ、稼働率 97.3%を達成しました。また、養護老人ホームの満床に近い入居維持、通所介護事業所（はなさんち・げんさんち）での目標上回る稼働、ホームヘルプステーションにおける特定事業所加算Ⅰの継続算定などにより、安定的な事業収入の確保に努めました。

(3) 設備投資

電力供給設備の老朽化対策（高圧機器・ケーブル更新）や防災システムの更新を計画的に実施し、安全な支援体制を整えました。

2. 組織力の強化

(1) バックオフィスの DX 推進と業務効率化

勤怠管理・給与計算・人事情報管理を一元化する新たな労務管理システムを導入し、データの二重入力解消や月次集計の自動化など、業務効率化の基盤を整備しました。

(2) 多職種連携と業務の専門化

特養における支援方針検討会議「ネクション」の機能や、職種別シートを用いた相互理解により、専門職間の連携を強化しました。また、「働き方プロジェクト会議」を中心に、フリー介護職員や清掃専門の介助員の配置、盛り付け業務の調理員への移管などを行い、介護職員が本来のケア業務に集中できる環境を整備しました。

(3) 人事考課制度の再構築において

予定していた人事考課制度の再構築については、実態に即したより良い制度とするため継続審議とし、令和 8 年度中の運用開始を目指しています。

3. 人材確保・育成

(1) 多角的な採用活動と国際人材の育成

大学・学校訪問や就職フェアへの参加、インターンシップ（13 名受け入れ）など計画的な採用活動を展開しましたが、新卒採用は 4 名にとどまり、依然として人員の確保には課題を残しています。一方で、国際人材育成においては、技能実習生から特定技能への移行（5 名）や新たな特定技能外国人の受け入れ（14 名）を

進め、年度末時点で計 22 名の体制を構築しており、よりきめ細やかな日本語教育や生活支援を実施しています。

(2) 職員処遇の改善と労働環境整備

給与規程の改定を行い、正規・非正規を問わない職員の処遇改善と安心できる環境整備に取り組みました。また、健康や業務の悩みを早期に相談できる窓口の周知により 36 名の相談に対応し、体調不安者への産業医面談や短時間勤務・業務軽減などの柔軟な就業配慮（離職防止策）を実施しました。

(3) 育成とコミュニケーションの推進

新人・中途・コミュニケーション研修のほか、法人内で介護福祉士受験対策講座を開催し 2 名が合格しました。さらに、成長支援と対話促進を目的に「lonI 面談」の定着を推進し、日常の悩みや課題を早期に解決する場を整備しました。

2 サービス事業所事業報告

(1) 特別養護老人ホーム

①ご入居者支援

ケアマネジャーを中心に、多職種が一堂に会して支援方針を検討する「ネクション」が機能し、各専門職が共通方針に基づいて支援を行える体制を構築することができました。

一方で、実際の支援においては、すべてのご入居者に十分に行き届いたとはいえず、引き続き改善が必要な結果となりました。また、ご入居者だけでなくご家族への情報共有が十分でなかった点もあり、課題を残す結果となりました。

②職員体制

- ・状況に応じて柔軟に職員が集まり、協働する機会が増加しました。
- ・尊厳ある最良のケア提供を目指し、必要な知識・技術を習得するための会議や研修機会を設け、12月にリーダーを対象としたトータルリスクマネジメント大会(感染症予防対策・事故予防対策・褥瘡予防対策・身体拘束廃止・BCP)を開催し、理解度を確認する場を設けました。
- ・各専門職が専門性を発揮できるよう、職種別シートを用いた相互理解の時間を設け、専門職間の連携強化を図りました。
- ・職員全員が安心して本音で話し合い、合意形成を図る会議運営を目指しましたが、協議の進め方にはセクション・部署ごとに差がみられ、課題が残りました。
- ・職員一人ひとりの成長支援を目的に、1on1面談および人事考課面談の機会を設けることができました。

③地域支援

- ・地域で生活する独居高齢者に対し、「京都市高齢者すまい・生活支援事業」に基づく住居確保および生活支援を実施しました。
- ・施設のソフト・ハード両面の機能を活かし、ご入居者・ご家族・地域住民を対象とした「秋祭り」を開催しました。また、夏にはご利用者・ご家族の参加、活動を意識した「夏祭り」を開催しました。
- ・特別養護老人ホームにおいて、空床ベッドを活用した短期入所サービスを提供できる環境を整備しました。

④経営管理目標

- ・稼働率については、退居から入居までの期間(機会損失)を5日以内と目標を設定し、97.3%と目標に近い数値を達成することができました。
- ・業務改善と効率化を図ることを目的に、「働き方プロジェクト会議(生産性向上委員会)」を中心として、各部署でさまざまな取り組みを実施しました。これらの取り組みを通じて、人員配置の最適化と業務の質向上を同時に進める体制づくりを行いました。

具体的には、まずフリー介護職員を配置し、人手不足への対応だけでなく、現場への助言や気付きのフィードバックを行うことで、介護サービスの質向上と業務改善につなげました。また、施設清掃を主とする介助員を新たに配置することで、介護職員が本来の介護業務に集中できる環境を整備しました。さらに、これまで介護職員が担っていた食事の盛り付け業務を調理員が担当する体制へと変更し、介護業務の専門化と効率化を図ることができました。

（２）養護老人ホーム

①ご入居者支援

- ・ご入居者が安心して生活を送れるよう、情報の周知徹底と関係づくりの支援に注力することができました。
- 行事などの必要な情報が行き届くよう、事前に掲示板でお知らせを行うとともに、確認が困難な方には職員がお伝えするなどの対応を継続することができました。
- ・ご入居者同士が互いに話し合える場を設けることで、良好な関係づくりに繋がるよう支援を行うことができました。
- ・会議や申し送りを通じて多職種間で協議を重ね、ご入居者個別の目標を設定しました。これにより、ご入居者の生活の質の向上に向けた適切なケアを実践することができました。

②職員体制

- ・接遇研修の実施により、一時的な改善は見られましたが、時間の経過とともにもとの状態に戻ってしまう傾向があったため、継続できる仕組みづくりが今後重要な課題となりました。
- ・各職種の役割を明確化することでそれぞれの専門性を最大限に発揮し、ご利用者の QOL 向上に取り組むことができました。
- ・相互理解を深めるため 1on1 面談の計画を実施しましたが、職員体制の変更により当初の予定通りに遂行することができませんでした。次年度は、体制の安定を図りながら、計画的なコミュニケーションを確保する必要があります。

③地域支援

特別養護老人ホームとの連携を強め、秋祭りや節分など施設行事を共同で開催することができました。

④経営管理目標

- ・福祉事務所と密に連携を図ることで、毎月定員（90 名）の満床に近いご入居者数を確保することができました。

(3) 短期入所事業所（ショートステイ）

①ご利用者支援

- ・短期入所事業の強みである 24 時間体制の支援で得た情報を基に、アセスメント・評価をおこない、支援内容を立てることができました。
- ・ご家族、ケアマネジャーへの情報発信では、職種間による理解のズレなどが生じたケースもあり、法人内での多職種ミーティングを定期的に開催するなど、相互理解を深め、ズレが生じないように努めました。
- ・緊急利用の希望があった際には、受け入れを行う体制を整え介護者負担軽減のサポートを行うことができました。

②職員体制

- ・各専門職は、それぞれの専門性を発揮した支援を行うことはできましたが、他専門職の役割の理解には課題が残りました。
- ・ご利用者支援に必要な知識、技術を習得するために、「さつき運営会議」を開始し、会議を通じて職員育成、各専門職の役割の理解に努めました。

③地域支援

- ・特別養護老人ホームと協働することで、施設機能を活かした「夏祭り」「秋祭り」等の行事を開催しました。また、法人の地域ケア委員会と協働することで、「さくら祭り」に参加し、地域の方々との交流の場を設けることができました。

④経営管理目標

- ・インスタグラム運用を開始し、ショートステイでの過ごしし場面を発信することで、新規利用申し込みに繋がったケースもあり、1 年を通じ目標とした稼動に近づけることができました。

< 特別養護老人ホーム >

①介護度の分布

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	平均
令和 7 年 3 月末	0	1	118	118	62	299	3.81
令和 8 年 3 月末	0	1	129	112	61	303	3.77
対 比	0	0	11	△6	△1	4	△0.04

②退居者・新規入居者の介護度の分布

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	平均
新 規	0	0	48	24	10	82	3.54
退 所	0	0	21	32	24	77	4.05
内、園内にて死亡(看取り 加算)	0	0	15(12)	24(20)	16(13)	55(45)	4.02
内、園外にて死亡(看取り 加算)	0	0	3(1)	3(0)	6(0)	12(1)	4.3
内、療養型等の病院へ転 所(退居)	0	0	3	5	2	10	3.9
内、在宅復帰	0	0	0	0	0	0	0

③稼働率・延べ人員

(定員 304名)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
月末人数	300	297	302	304	303	303	302	301	304	302	302	302		301.9
延人数	8857	9084	8918	9173	9253	8874	9205	8947	9190	9038	8274	9201	108014	9001.1
入所	10	11	7	8	1	8	7	4	8	5	8	5	82	6.8
退所	10	13	2	6	2	8	8	5	5	7	8	3	77	6.4
稼働率	97.1	96.4	97.8	97.3	98.2	97.3	97.7	98.1	97.5	95.9	97.2	97.6	-	97.3

令和7年度延利用人数 108014名(令和6年度:107183名)

令和7年度平均稼働率 97.3%(令和6年度:96.6%)

< 養護老人ホーム(特定施設入居者生活介護を含む) >

①入居者の異動状況

定員	90
退所者	12
内、園内にて死亡	3
内、園外にて死亡	2
内、特養へ転所	4
内、療養型へ転所	1
内、在宅復帰	2
新規入居者	12
延べ人数	32039

②月入所人数・延人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
定員	89	89	89	89	90	90	90	90	89	88	90	90	1073	89.4
延人数	2610	2680	2654	2788	2717	2631	2741	2645	2725	2713	2431	2704	32039	2669.9
平均利用人数	87.0	87.4	87.8	85.9	87.3	88.1	87.4	88.4	87.6	84.0	85.7	88.3	-	87.1

③月契約人数・延人数（特定施設入居者生活介護のみ）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
契約人数	47	48	49	49	49	49	49	49	48	49	48	47	581	48.4
延人数	1349	1411	1470	1517	1492	1437	1483	1445	1447	1472	1282	1440	17245	1437.0
平均利用人数	45.0	45.5	49.0	48.9	48.1	47.9	45.8	47.8	48.2	47.5	45.8	46.5	-	47.2

< 短期入所事業所 >

事業実績（定員24名）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
実人員	48	45	49	51	48	49	50	51	47	43	44	47	572	47.7
延人数	403	368	362	348	359	340	343	355	354	367	312	362	4273	356.0
平均利用人数	13.4	11.9	12.1	11.2	11.6	11.3	11.0	11.8	11.4	11.8	11.1	11.7	-	11.7
稼働率	56.0	49.5	50.3	46.8	48.3	47.2	46.1	49.3	47.6	49.3	46.4	48.7	-	48.8

令和7年度延利用人数 4273名（令和6年度：4295名）

令和7年度平均稼働率 48.8%（令和6年度：49.0%）

（4）同和園デイサービスセンター

①ご利用者支援

- ・行事での役割や日々のタオルたたみ等、ご利用者が役割を持つ場面が増加し、自立支援の取り組みの成果が出ましたが自立支援を優先する意識改革が課題となりました。
- ・認知症ケアの事例検討を行うことができました。

②職員体制

- ・意欲的に外部研修にも参加でき、ご利用者主体で支援を行う意識が定着しました。
- ・「興味関心シート」は形式的な運用となり実効性が薄かったため、日常会話からニーズを引き出す手法へ変更し、ニーズの把握に努めました。

③地域支援

- ・地域ケア委員会の活動や地域のお祭りには、ご利用者も一緒に参加し楽しむことができたが、地域の防災訓練には日程が合わず参加できませんでした。
- ・同和園が行っている福祉の取り組みについて近くの小学校へ話をしに伺ったところ、小学生から同和園を見学したいとの希望があり、ご利用者と小学生との交流の場を実現することができました。

④経営管理目標

- ・年間平均稼働率は約 93.3%でした。冬期は退所や入院が多く利用が減る傾向にあるため、安定稼働に向けた対応が課題となりました。
- ・SNSへの積極的な発信を行いケアマネジャー等の専門職との信頼構築、アピールに繋がりました。

実績 同和園デイサービスセンター（定員 40 名）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
営業日数	26	27	25	27	26	26	27	25	26	24	24	26	309
最大利用 可能人数	1040	1080	1000	1080	1040	1040	1080	1000	1040	960	960	1040	12360
延利用人数	987	1054	963	1001	975	990	1004	907	954	872	860	929	11496
一月当たり 実人員	128	127	130	122	122	117	123	121	120	120	120	119	122
一日当たり 利用人数	38.7	39.0	38.6	38.0	37.0	37.2	37.8	36.6	38.1	36.9	35.3	37.0	37.5
40 名定員 稼働率	94.9	97.6	96.3	97.2	93.8	95.2	93.0	90.7	91.7	90.8	89.6	89.3	93.0

※ 合計欄のうち、一日当たり利用人数及び稼働率は年間平均

※ 令和 7 年度平均稼働率 93.0%（令和 6 年度：93.8%）

（5）西野の家「はなさんち」通所介護事業所

①ご利用者支援

- ・ご利用者数名のグループでおやつの買い出しや木工、おやつ作り等を担う「班活動」を新たに開始し、活動の回数を重ねることにご利用者の新たな役割として定着しました。
- ・ご家族やケアマネジャーと情報共有を重ね、必要に応じて担当者会議の開催を依頼する等、ご利用者支援を円滑に進めることができました。

②職員体制

- ・適正な人員配置になるよう人員配置の変更など複数回にわたり業務シフトの見直しを行いつつも、ケアの質の維持に努めました。
- ・全職員に複数回の面談を行い、事業所の目標共有や各職員の課題や考え方の把握に努めました。
- ・勉強会で認知症の基礎的な研修や事例検討を実施するとともに、日々のミーティングで意見交換を行うことで認知症ケアの質の向上を図りました。

③地域支援

- ・オレンジトライアングルの各事業所とともに西野まつり等の地域行事に参加し、地域役員の方々と顔なじみの関係を築くことができ、地域とのつながりを強化することができました。

④経営管理目標

- ・スポット利用の積極的な受け入れや、複数の居宅介護支援事業所との関係強化を図ったことで、年間平均稼働率は目標の85%を上回る89.3%となりました。しかしながら、依然として人件費率が高く、赤字収支となりました。

事業実績 西野の家「はなさんち」通所介護事業所（定員12名）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
営業日数	26	27	25	27	26	26	27	25	26	24	24	26	309
最大利用 可能人数	312	324	300	324	312	312	324	300	312	288	288	312	3708
延利用人数	273	258	263	283	289	292	301	281	267	259	259	288	3313
一月当たり 実人員	33	31	32	33	35	36	35	35	36	35	35	33	34.1
一日当たり 利用人数	10.5	9.6	10.5	10.5	11.1	11.2	11.1	11.2	10.3	10.8	10.8	11.1	10.7
稼働率	87.5	79.6	87.7	87.3	92.6	93.6	92.9	93.7	85.6	89.9	89.9	92.3	89.3

※ 合計欄のうち一日あたり利用人数及び稼働率は年間平均。

※ 令和7年度平均稼働率89.3%（令和6年度：83.4%）

(6) 日野の家「げんさんち」通所介護事業所

①ご利用者支援

- ・ご利用者同士ができることを支え合うことで自己決定を高め、自主的に参加できるよう役割や目的を持った活動を行ったことで自立支援につなげることができました。
- ・認知症ケアについては研修や月例会議で事例検討を行い、認知症に関する知識向上を図りました。個別ケアに関しても、日々のミーティングで小さな変化を共有し、次回利用時にアプローチできるように取り組みました。
- ・家族懇談会を開催し、ご利用者のご家族との交流を行いました。自宅での困りごとや介護の負担について話を伺うことで、日常のケアに活かす機会となりました。

②職員体制

- ・I o n l 面談や定期的な面談を行い、コミュニケーションを深めることで職員一人ひとりの課題把握に努めました。
- ・シフト業務やケア確認シート、ケース記録に関するマニュアルを全職員に周知し、業務の標準化と効率化を図りました。

③地域支援

- ・まちかどステーション「暮らしの保健室日野」を毎月開催し、地域の方々にとって定期的な通いの場となりました。
- ・ボランティアの受け入れ、児童館との交流、地域街角清掃隊の活動を継続し、定期的な地域活動につなげることができました。
- ・日野自治会主催の秋祭り「ふれあい広場」に参加しました。
- ・併設のコミュニティカフェ&デリ「ヒノリーノ」との連携を活かし、新たにご利用者と赤ちゃんとの交流の機会を作りました。

④経営管理目標

- ・年間平均稼働率は91.9%となり、目標であった90%を上回りました。ケアマネジャーへの広報で、げんさんちの活動を知ってもらうことで、ご利用者の紹介につなげることができました。

事業実績 日野の家「げんさんち」通所介護事業所（定員 25 名）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
営業日数	26	27	25	27	26	26	27	25	26	24	24	26	309
最大利用 可能人数	650	675	625	675	650	650	675	625	650	600	600	650	7725
延利用人数	552	594	584	633	575	615	651	592	622	555	540	588	7101
一月当たり 実人員	76	77	83	80	78	81	83	81	79	76	78	77	949
一日当たり 利用人数	21.2	22.0	23.3	23.4	22.1	23.6	24.1	23.6	23.9	23.1	22.5	22.6	22.9
稼働率	84.9	88.0	93.4	93.7	88.4	94.6	96.4	94.7	95.6	92.5	90.0	90.4	91.9

※ 合計欄のうち、一日当たり利用人数及び稼働率は年間平均

※ 令和 7 年度平均稼働率 91.9%（令和 6 年度：86.7%）

（7）同和園ホームヘルプステーション

①ご利用者支援

- ・ご利用者一人ひとりの「できること」を尊重し、生活機能の維持・向上を目指した支援に取り組みました。
- ・看取り期の方や認知症の方の対応において、ケアマネジャー・訪問診療医・訪問看護等の多職種および他事業所との連携を継続し、情報共有や相談支援を行いました。ご利用者の意向を丁寧に確認しながら、安心して地域で最期まで暮らし続ける環境づくりに努めました。

②職員体制

- ・看取りケアおよび認知症ケアに関する研修や事例検討を実施し、職員の介護技術とコミュニケーション能力の向上を図りました。さらに、事業所から職員 2 名が認知症介護実践者研修を受講し、専門性の強化を図りました。
- ・事務作業について、これまで一部の職員に偏っていた状況を見直し、複数人で分担する体制へと変更しました。作業内容を整理し、全員が把握できるように明示したことで、担当業務が明確になり、特定の職員に事務作業が集中する状況が改善されました。また、事務作業が効率化されたことで、サービス提供に充てる時間をより確保することができました。

③地域支援

- ・井戸端サロンを継続開催し、地域住民が気軽に集える交流の場としての機能強化を図りました。
- ・法人内の地域ケア委員会と連携し、「同和園さくら祭り」へ参加することで、地域住民や他事業所との交流を深めることができました。

④経営管理目標

- ・特定事業所加算Ⅰを継続して算定することができました。収入は前年と同程度でしたが、職員数の減少に伴い支出が抑えられたことで収支は改善しました。
- ・一方で、入退院や利用終了などによる利用者の入れ替わりが多く、利用状況が安定しないという課題が見られました。

事業実績 同和園ホームヘルプステーション

(介護保険法：訪問介護)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
延人数	751	783	725	774	779	794	837	791	829	754	665	726	9208	767.3
実人員	97	98	97	96	100	102	108	108	108	103	95	97	1209	100.7

※ 令和7年度 月平均延人数 767.3名(令和6年度:780.6名)

※ 令和7年度 月平均実人員 100.7名(令和6年度:101.0名)

(介護保険法：総合事業介護型)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
延人数	151	147	127	127	119	136	118	111	112	96	102	124	1470	122.5
実人員	32	26	26	24	25	26	23	23	22	22	23	25	297	24.7

※ 令和7年度 月平均延人数 122.5名(令和6年度:132.1名)

※ 令和7年度 月平均実人員 24.7名(令和6年度:26.5名)

(介護保険法：総合事業生活型)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
延人数	21	18	21	16	17	21	23	27	27	24	22	30	267	22.2
実人員	7	7	8	8	7	8	8	9	8	8	8	7	97	8.1

※ 令和7年度 月平均延人数 22.2名(令和6年度:34.3名)

※ 令和7年度 月平均実人員 8.1名(令和6年度:8.8名)

(介護保険法：総合事業支え合い型)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
延人数	3	0	5	4	4	5	4	4	4	4	4	2	43	3.6
実人員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	1.0

※ 令和7年度 月平均延人数 3.6名(令和6年度:7.8名)

※ 令和7年度 月平均実人員 1.0名(令和6年度:1.9名)

(8) 同和園訪問看護ステーション

①ご利用者支援

- ・ご利用者が住み慣れた地域で「あなたらしく、自分らしく輝ける人生」を最期まで送って頂けるよう、ご利用者及びご家族のニーズの変化に寄り添いながら、関係機関と連携し在宅看取りや認知症ケアを実施しました。
- ・勤務時間の調整を行うことで、サービスが入りにくい時間帯のニーズにも対応することができました。また、定期的な事業所内カンファレンスや勉強会を通じて、ご利用者に必要な支援や最適なケアを検討し、日々の援助に活かしました。

②職員体制

- ・ご利用者の情報やケア方法については、毎日朝夕のミーティングや訪問終了後の報告で情報共有し、事例検討会なども活用しながら職員間でのサービスの標準化を図り、効果的な支援につなぐことができました。
- ・毎月の事業所内勉強会の実施に加え、外部研修への参加も積極的に行い、各分野の専門職による講義内容を伝達講習しました。
- ・緊急対応や訪問先での不明点などは即時電話で確認を取れる体制を整えたことで、職員の不安軽減につながりました。

③地域支援

- ・情報共有には ICT を活用し、主治医や担当ケアマネジャー、他事業所との連絡を迅速かつ正確に実施できました。
- ・継続的な看護の実施にあたり、入院や入所の際には看護サマリーを病院や施設へ交付し、退院時にはカンファレンスに参加することで連携強化を図りました。

④経営管理目標

- ・月平均延べ利用人数は 394.3 名と、前年度とほぼ同数でした。
- ・入院となるケースも多く、月毎の利用者数の安定には至りませんでした。
- ・同和園の計画停電時に、災害を想定した訓練を実施しました。災害時持ち出し物品の定期点検を行い、緊急時でも訪問継続できる体制を見直しました。
- ・訪問看護計画書の作成頻度を 2 か月に 1 回から毎月へ変更しました。これにより、計画書作成対象者を選定する時間的ロスの削減だけでなく、計画書見直し時間の短縮や他事業所との連携の円滑化につながり、業務の効率化が図れたことで、残業時間は昨年度比で 44 時間減少しました。

事業実績 同和園訪問看護ステーション

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
営業日	26	27	25	27	26	26	27	25	26	24	24	27	310	—
延べ利用人数	394	445	450	444	394	377	430	414	340	343	351	350	4732	394.3
一月当たり 利用人員	69	68	69	72	72	70	71	75	69	74	71	70	850	70.8
一日当たり 利用人数	15.2	16.5	18.0	16.4	15.2	14.5	15.9	16.6	13.1	14.3	14.6	13.0	—	15.3
定期巡回・随 時対応型訪問 介護看護件数	3	3	3	4	4	2	2	2	2	4	3	3	35	2.9

※ 令和 7 年度 平均延べ利用人数 394.3 名（令和 6 年度：394.5 名）

※ 令和 7 年度 平均一月当たり利用人数 70.8 名（令和 6 年度：68.3 名）

(9) 同和園居宅介護支援事業所・西野の家「はなさんち」居宅介護支援事業所

①ご利用者支援

- ・ご利用者が言葉で表出されている希望だけでなく、多方面から解決すべき課題を把握し、解決できるよう取り組みました。
- ・最期まで住み慣れた自宅で過ごしたいという思いに寄り添えるよう、心身の状態変化に気付き、迅速かつ丁寧に対応できるよう意思決定支援を常に意識しながら、事業所内での情報共有を行いました。

②職員体制

- ・職員からの相談を待つだけでなく、日々のやり取りや様子を見ながら積極的に声掛けを行い、常に相談しやすい体制づくりに努めました。
- ・事例共有を実施し、追体験できる場面を増やすとともに、年間を通しての研修や事例検討を実施し、職員の知識・技術向上と育成に努めました。
- ・1 on 1 面談を始め、必要に応じて個別面談を行い、不安が強くなる前に課題解決につなげられるよう、指導職を中心に職員と話す機会を多く設けました。

③地域支援

- ・外部研修や事例検討会、地域ケア会議等に参加して、地域課題を検討する場に関わりましたが、課題の抽出や各方面への働きかけには課題が残りました。
- ・介護・医療連携を始め、情報共有を通じて良好な関係構築に努め、多職種とのつながりを深めました。また、地域行事等にも参加し、地域の方々との関係づくりを大切にしました。

④経営管理目標

- ・ 給付管理件数は両事業所合計で月 380 件以上を維持できましたが、職員一人あたりの給付管理件数のばらつきを平準化することはできませんでした。
- ・ 超過勤務はほとんどなく、時間内で業務を完結する意識は定着しています。

事業実績 同和園居宅介護支援事業所

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
給付管理 件数	236	239	244	238	238	236	242	250	243	241	239	233	2879	239.9
介護予防給 付管理件数	7	11	12	12	12	12	14	13	14	16	22	21	166	13.8
受託件数	10	6	7	9	8	7	7	6	6	7	18	18	109	9.0
合計件数	253	256	263	259	258	255	263	269	263	264	279	272	3154	262.8

※令和 7 年度 月平均合計件数 262.8 件（令和 6 年度：248.8 件）

事業実績 西野の家「はなさんち」居宅介護支援事業所

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
給付管理 件数	138	127	134	137	141	153	149	146	145	144	137	134	1685	140.4
介護予防給 付管理件数	5	5	5	3	4	3	4	4	5	3	4	6	51	4.3
受託件数	2	2	2	2	2	2	2	4	3	2	2	2	27	2.3
合計件数	145	134	141	142	147	158	155	154	153	149	143	142	1763	146.9

※令和 7 年度 月平均合計件数 146.9 件（令和 6 年度：132.3 件）

(10) 京都市醍醐北部地域包括支援センター

①ご利用者支援

- ・個別ケース検討を目的とした地域ケア会議を、年間で24件開催しました（内訳：支援困難ケース9件、自立支援に資するケース15件）。特に自立支援に資する会議では、伏見区深草・醍醐介護予防推進センターに加え、伏見薬剤師会・地域医療機関連携室の協力も得られるようになり、会議の質の向上が認められました。
- ・伏見区認知症初期集中支援チームとして、新たに4件の支援を開始しました。
- ・消費者被害や権利擁護に関する相談対応件数は57件で、そのうち11件について、法定後見の申し立てを行いました。

②職員体制

- ・内部研修を4回実施し、職員の知識・技能の向上と平準化に努めました。また、京都市主催の新任者・現任者・管理者研修に参加しました。
- ・人員配置が十分に確保できない状況が続きましたが、支援の質を落とさないよう努めました。

③地域支援

- ・「地域の見守りの体制づくり」をテーマとした日常生活圏域の地域ケア会議を開催し、職種や立場を越えた意見交換を通じて課題の抽出と共有を図りました。この機会に「見守り」についての考え方の整理・認識の共有を図りました。
- ・「公園体操」・「健康すこやか学級」「地域サロン（レインボーカフェ・ひまわりカフェ）」など住民主体の活動を支援しました。
- ・「権利擁護ネットワーク」において研修を開催し、地域関係機関のスキルアップを図りました。
- ・認知症サポーター養成講座を開催し、講座修了者は合計128人でした。

④経営管理目標

- ・住民主体の活動や一般介護予防事業など、介護保険サービス以外の社会資源を積極的に活用し、担当給付管理件数の適正化に取り組みました。
- ・給付管理件数は、前年度比で25件減少しました。
当センターで認定申請代行した件数は前年度とほぼ変わらず、一般介護予防事業を紹介することで介護保険サービス利用に至らずに済んでいる場合があることも減少に影響していると考えられます。

事業実績 京都市醍醐・北部地域包括支援センター

●総合相談支援

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
件数	342	340	336	323	324	340	328	353	358	343	336	346	4069	339.1

※令和7年度平均件数：339.1件（令和6年度：342.8件）

●介護予防支援・介護予防ケアマネジメントA給付管理

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
件数	401	388	394	387	376	381	381	380	390	389	387	390	4644	387.0
うち委託	138	132	128	127	120	125	128	124	122	123	133	135	1535	127.9

※令和7年度平均387.0件、委託127.9件（令和6年度：411.9件 委託145.5件）

※令和7年度ケアマネジメントC 7件（令和6年度：2件）

●虐待相談

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
相談件数	0	2	3	1	0	1	0	1	3	1	4	0	16	1.3

※令和7年度 16件（令和6年度：30件）

●包括的継続的ケアマネジメント（ケアマネ支援）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
相談件数	6	7	25	9	7	5	6	9	7	10	10	6	84	7.0

※令和7年度 84件（令和6年度：147件）

●カフェ de おれんじサロン

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
参加者数	5	5	5	7	7	5	6	9	7	10	10	6	82	6.8

※令和7年度 82件（令和6年度：96件）

3 法人本部事業報告

法人本部全体方針

1. 各施設・事業所の事業計画達成支援

- ・施設部・在宅部の各事業所と連携し、情報の共有、業務効率化やコスト削減等の取り組みを支援しました。
- ・物価高騰や慢性的な人材不足といった厳しい外部環境が継続するなかで、人材の確保と継続的な経費削減・業務効率化の取り組みを進め、財務基盤の強化を図りました。手元資金についても回復基調が継続し、財務体質の改善に向けた債務再編にも着手しました。

2. 職員の確保・育成・定着

- ・キャリアパスの再構築に向けて、「等級別評価シート」「職種別評価シート」を活用した人事考課を試行的に運用するとともに、給与規程の改定を実施し、職員の処遇改善と労働環境の整備に取り組みました。

3. 労務管理システムの更新による効率化

- ・勤怠管理、給与計算、人事情報管理を一元的に管理する新たな労務管理システムを導入し、バックオフィス業務のDX推進に向けた基盤を整備しました。

(1) 総務課・経理課

①建物・設備等の適切管理

- ・電力供給設備の老朽化対策及び安定稼働を目的として、高圧機器及び高圧ケーブルの更新工事を実施しました。また、施設の防災機能強化を目的として、防災システムの更新工事を実施しました。
- ・老朽化が進む壱番館及び貳番館の空調設備（冷暖房設備）について、補助金の活用を含めた更新計画の検討を進めました。
- ・食材料費及び日用品等の価格高騰に対応するため、見積もり合わせや仕入先の見直しを進め、コスト削減に努めました。

②危機管理対策

- ・BCP（事業継続計画）に基づく研修や避難訓練、感染症発生時の情報共有を通じて、災害・感染症発生時にもご利用者と職員の安全を確保し、サービスを継続できる体制づくりに努めました。
- ・食品、飲料水、医療衛生用品等の備蓄状況を確認し、必要に応じて更新を行いました。

③広報活動

- ・ホームページ、SNS、機関誌「同和園報」等を通じて、法人の活動や行事、地域との

つながりを継続的に発信しました。

- ・同和園後援会・応援団の活動、秋祭り、さくら祭り、地域行事への参加、メディア出演等を通じて、地域住民や関係機関に同和園の取り組みを広く周知し、理解と協力を得られる関係づくりに努めました。

（２）人事課

①職場環境整備とキャリア形成支援

- ・『同和園ケアサポート理念』および『大綱』に基づくケアの実践と、提供サービスのさらなる向上を目的として、職員の処遇および労働環境の改善を実施しました。資格取得支援やキャリア形成の促進に加え、業務に対する加算の拡充や、雇用形態（正規・非正規）を問わない給与規程の改定を行い、全職員が安心して働ける環境整備に取り組みました。
- ・令和７年１０月の導入を目標として進めた人事考課制度の再構築については、実態に即したより良い制度とするため、継続審議としました。引き続き検討を重ね、令和８年度中の運用開始を目指します。新たな評価制度を日々の業務や処遇と連動させることで、職員一人ひとりのキャリアパスの実現を後押しできるような仕組みづくりを進めてまいります。
- ・勤怠管理、給与計算、人事情報管理の各システムを統合したことで、従来生じていたデータの二重入力の手間を解消し、月次の集計作業の自動化と業務効率化に取り組みました。また、新システムへの移行初年度ということもあり、導入前の事前告知を丁寧に行うとともに、新たな運用ルールの周知徹底を図り、スムーズな早期定着に向けたサポート体制の構築に取り組みました。

②計画的な職員採用

- ・多様な人材（新卒・社会人・シニア層など）の確保に向けて、計画的な採用活動を実施しました。法人の魅力を広く発信するため、ホームページや SNS の定期的な更新に加え、大学・専門学校・高等学校への訪問、就職フェアへの参加、高校生の職業体験の受け入れ、学校授業への協力など、多角的なアプローチを行いました。さらに、学生等１３名のインターンシップ受け入れを実施しました。入職後のキャリア形成支援にも取り組み、職員の定着と育成に努めました。新卒採用は４名にとどまりました。

③職員育成の推進

- ・新人職員研修、中途採用者研修、コミュニケーション力向上研修を実施し、職員の能力向上に取り組みました。
- ・上司と部下の定期的な対話を促進するため、１on１面談の定着を目指して推進会議を実施し、キャリア形成や日常の悩みについて話し合える場を整備しました。
- ・介護福祉士受験対策講座を法人内で開催し、受講者３名のうち２名が合格しました。

④組織開発

- ・新規採用者が相談しやすい職場づくりを目指し、新人歓迎会、新年会などの交流の機会を

設け、職員間の関係構築や風通しの良い職場づくりに努めました。

- ・職員が健康や業務の悩みを早期相談できるよう窓口を明確化・周知し、当期は 36 名の相談に対応しました。また、体調不安のある職員には迅速に産業医面談を実施し、復職支援や離職防止に向けて、医師の指導に基づく短時間勤務や業務軽減など、個々の状態に応じた柔軟な就業配慮を行いました。

⑤国際人材育成

- ・技能実習生 8 名のうち 5 名が特定技能へ移行しました。また、新たにベトナム人 1 名と国内転職のミャンマー人 1 名、およびインドネシア人 12 名を 3 回に分けて、特定技能外国人として受け入れました。これにより年度末時点での特定技能 1 号は計 22 名となり、対象者に対して日本語教育および生活支援を行いました。あわせて、体調不良時の相談対応や病院受診時の同行支援なども適宜実施しました。

(3) 医事課

- ・配置医師との連携を密にし、診療記録の管理を一元化することで、事業運営の安定化と医療サービスの質の向上を図りました。
- ・法改正や報酬基準の変更内容を迅速に把握し、請求漏れを防止するとともに、加算の取得に努めました。
- ・施設部との連携体制を強化し、ご入居者の診療情報を円滑に共有することで、請求業務の正確性向上を図りました。
- ・業務効率向上を目的に、書類や帳簿の管理を行い、スムーズな業務実施ができるようにサポートを行いました。

研修一覧

月	日	曜日	研修名	区分
4	24	木	理念と運営方針 ～管理職に求められる役割～	階層別
5	21	水	介助技術の基本①	スキル向上
5	26	月	新入職員社会人マナー研修	入職・新人
6	11	水	介助技術の基本②（新人）	スキル向上
6	28	土	トータルリスク研修	リスク管理
7	15	火	法人理念と運営方針	階層別
7	16	水	1on1 面談のためのコミュニケーションスキル研	スキル向上
8	20	水	コミュニケーション力向上研修	スキル向上
8	29	金	MBTI タイプ研修	スキル向上
9	10	水	介助技術研修（在宅部）	スキル向上
9	29	月	管理職員研修	階層別
10	22	水	介助技術の基本③（中堅職員）	スキル向上
11	11	火	介護福祉士受験対策講座①	受験対策
12	10	水	介護福祉士受験対策講座②	受験対策
12	11	木	実践成果発表会	研修成果の発表会
12	17	水	新人研修（感染症、虐待防止）	スキル向上
12	20	土	トータルリスク研修	リスク管理
12	複数回		看取り研修	スキル向上
1	15	木	介護福祉士受験対策講座③	受験対策
1	19	月	1on1 研修（指導職対象）	階層別
2	5	木	1on1 研修（指導職対象）	階層別

月	日	曜日	研修名	区分
3	27	金	新規入職者研修 1 日目	入職・新人
3	28	土	新規入職者研修 2 日目	入職・新人
3	30	月	新規入職者研修 3 日目	入職・新人